

●本支店会計は、こんな感じ●

業績の好調なチュー忠商事は、ついに関西へ進出しました。
そこで関西の営業拠点として大阪に支店を設けることにしました。

まずは支店を開設する



1 大阪に支店を開設して、



今すぐ大阪に
引っ越してもらえる？

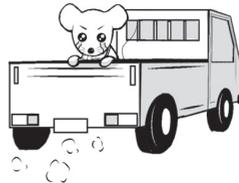
大阪に支店作る
ことにしたから



そんな急に
言われても…

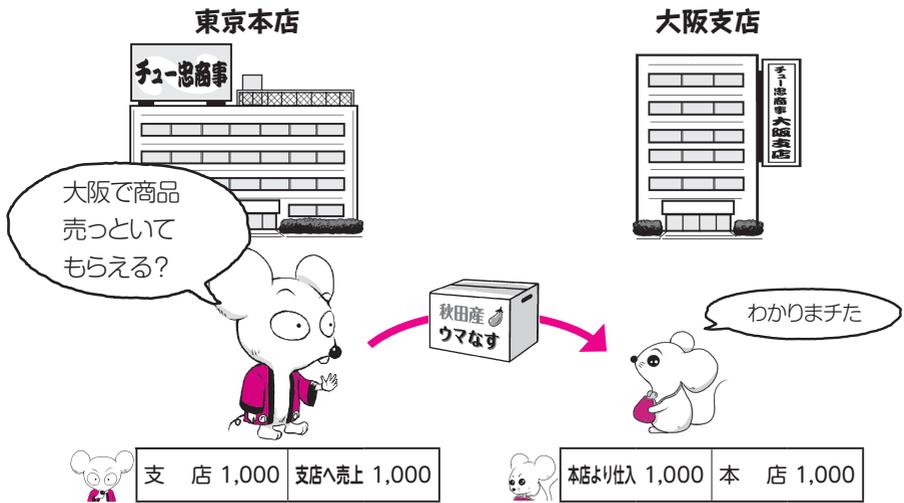


2 子ネズミを大阪にとばす。

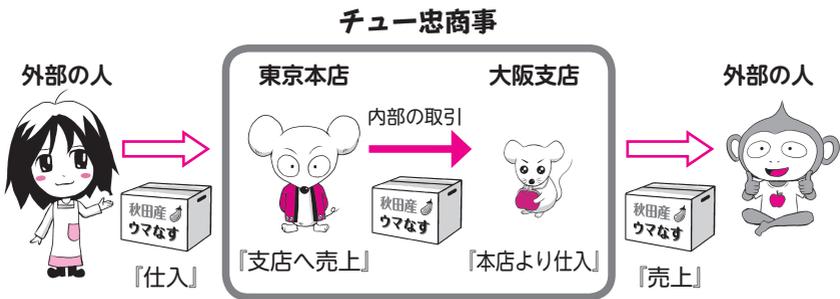


チュー忠商事の大阪支店を開設したら、大阪支店にも帳簿を作ります。
そして最初の運転資金として、本店から支店へ『現金』を送金します。

本店から支店へ 商品を送付する



本店から支店へ商品を送付したときは、
 本店においては『**支店へ売上**』、
 支店においては『**本店より仕入**』とします。
 あくまで同じ**会社内部**での商品の移動なので、
 外部との取引である『売上』・『仕入』とは区別します。



設例 (34) -2

チュー忠商事の取引について、本店と支店の仕訳をしめしなさい。

取引 本店は支店に原価 ¥ 3,000 の商品を発送し、支店はこれを受け取った。

なお、本店から支店へ商品を発送するさい、原価の 20% の利益が加えられている。



$$¥ 3,000 \times (1+20\%) = ¥ 3,600$$



支店	3,600	支店へ売上	3,600
----	-------	-------	-------



本店より仕入	3,600	本店	3,600
--------	-------	----	-------

会社内部の取引であっても、通常、商品には利益を上乗せします。このときの価格を、振替価格といいます。

@本店 『支店』		@支店 『本店』
1,000 30,000 5,000 1,000 3,600	金額は一致！	1,000 30,000 5,000 1,000 3,600
『支店へ売上』		『本店より仕入』
1,000 3,600	金額は一致！	1,000 3,600

このように、本支店間の債権・債務関係を表す『支店』 ↔ 『本店』、本支店間の商品の売買を表す『支店へ売上』 ↔ 『本店より仕入』の金額は、貸借逆で一致します。

まず、これが大前提です。

さらに、この大前提となる話があった上で、

連絡がまだ届いていないという話がでてきます。

これが本支店会計の醍醐味ともいえる「^{みたつ}未達」というお話です。



設例 (34)-2 の連絡未達バージョン!!

取引 本店は支店に原価 ¥ 3,000 の商品を発送したが、この連絡が支店に未達だった。なお、本店から支店へ商品を発送するさい、原価の 20% の利益が加えられている。

オイラは取引を仕訳するヨ



僕はまだ何も聞いてないでチユ

支店	3,600	支店へ売上	3,600
仕訳なし			

この時点では、貸借逆で一致するはずの勘定がまだ一致していない状態になってしまっています。

@本店 『支店』	まだ金額は一致せず	@支店 『本店』
1,000 30,000 5,000 1,000 3,600	←→	1,000 30,000 5,000 1,000
『支店へ売上』	まだ金額は一致せず	『本店より仕入』
1,000 3,600	←→	1,000

取引 その後、支店に連絡が到達した。



お手紙です

仕訳なし		本店より仕入 3,600	本店 3,600
------	--	--------------	----------

連絡がききました 仕訳しまチユ

その後、連絡が到達して支店でも仕訳をおこないます。ここで初めて本支店間で貸借逆で一致すべき勘定が、ちゃんと一致します。

@本店 『支店』	金額は一致!!	@支店 『本店』
1,000 30,000 5,000 1,000 3,600	←→	1,000 30,000 5,000 1,000 3,600
『支店へ売上』	金額は一致!!	『本店より仕入』
1,000 3,600	←→	1,000 3,600

このように、連絡未達の取引があると、本支店間で貸借逆で一致するはずの勘定が一致していない状態になってしまいます。
そこで、未達事項は連絡が到達したとみなして仕訳をおこないます。

設例 34-3 過去問題 127回より抜粋・改題

未達事項の整理を行いなさい。

取引1 本店は、支店に商品 ¥ 1,800（振替価格）を売り上げたが、支店に未達だった。

取引2 支店は、本店に現金 ¥ 500 を送金したが、本店に未達だった。

	@本店	@支店
取引1 :	仕訳なし <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	本店より仕入 1,800 本店 1,800
取引2 :	現金 500 支店 500	仕訳なし <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

一致するはずなのに一致していない状態になってしまっている

『支 店』 ↔ 『本 店』
『支店へ売上』 ↔ 『本店より仕入』

これらの勘定を、貸借逆で一致させる要領で考えます。

取引1 :

本店側ではすでに仕訳をしているので、本店では「仕訳なし」です。
連絡が未達であった支店側で、未達事項である『本店より仕入』の仕訳をします。

取引2 :

支店側ではすでに仕訳をしているので、支店では「仕訳なし」となります。

連絡が未達であった本店側で、未達事項の仕訳をします。



問題 未達事項の整理

青森商店(株)の未達事項整理後の残高試算表を完成させなさい。

[資料1] 未達事項整理前の残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	11,000	4,000	買掛金	23,500	17,000
売掛金	30,000	32,000	貸倒引当金	500	200
支店	68,000	—	建物減価却累計額	20,000	10,000
繰越商品	18,000	22,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	70,000
仕入	250,000	120,000	資本金	100,000	—
本店より仕入	—	138,000	繰越利益剰余金	18,000	—
販売費	20,000	30,000	売上	189,000	310,800
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上	142,800	—
			受取地代	5,100	—
	500,000	408,000		500,000	408,000

[資料2] 未達事項

1. 本店は、支店に商品を ¥ 4,800 で売り上げたが、支店に未達であった。
2. 支店は、本店に現金 ¥ 700 を送金したが、本店に未達であった。
3. 本店は、支店の売掛金 ¥ 8,000 を現金で回収したが、その通知が支店に未達であった。
4. 支店は、本店負担の販売費 ¥ 800 を、小切手を振り出して支払ったが、その通知が本店に未達であった。
5. 支店は、本店が受け取るべき地代 ¥ 300 を現金で受け取ったが、その通知が本店に未達であった。

答案用紙

未達事項整理後の残高試算表

残高試算表

借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金			買掛金	23,500	17,000
売掛金			貸倒引当金	500	200
支店		—	建物減価却累計額	20,000	10,000
繰越商品	18,000	22,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	
仕入			資本金	100,000	—
本店より仕入	—		繰越利益剰余金	18,000	—
販売費			売上		
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上		—
			受取地代		—



解説

Step 1 未達事項の仕訳をする

未達事項は仕訳をしっかりと下書用紙に書きましょう。

このとき、本店の仕訳なのか支店の仕訳なのか間違えないように、下書用紙を本店の下書きのエリア、支店の下書きのエリアに分けるなどして、ミスしない工夫をするとよいでしょう。

未達事項 1	:	@本店				@支店			
仕訳なし						本店より仕入	4,800	本店	4,800

未達事項 2	:	@本店				@支店			
現金預金	700	支店	700			仕訳なし			

未達事項 3	:	@本店				@支店			
仕訳なし						本店	8,000	売掛金	8,000

未達事項 4	:	@本店				@支店			
販売費	800	支店	800			仕訳なし			

未達事項 5	:	@本店				@支店			
支店	300	受取地代	300			仕訳なし			

Step 2 仕訳の集計をする

未達事項の仕訳をすべて下書用紙に書いたら、あとは集計します。

集計漏れがないように、**下書用紙の仕訳に集計済みの印(✓など)をつけながら慎重に行いましょう。**

なお、本支店会計の問題の[資料]のT/Bは、借方・貸方のそれぞれに、「本店のT/Bの列」・「支店のT/Bの列」があります。

慣れないうちはミスしやすいので注意が必要ですが、「今やっている処理が@本店なのか、@支店なのか」を頭の中でしっかり切り替えて処理を行えば、まずミスはしません。

解答

未達事項整理後の残高試算表

残高試算表

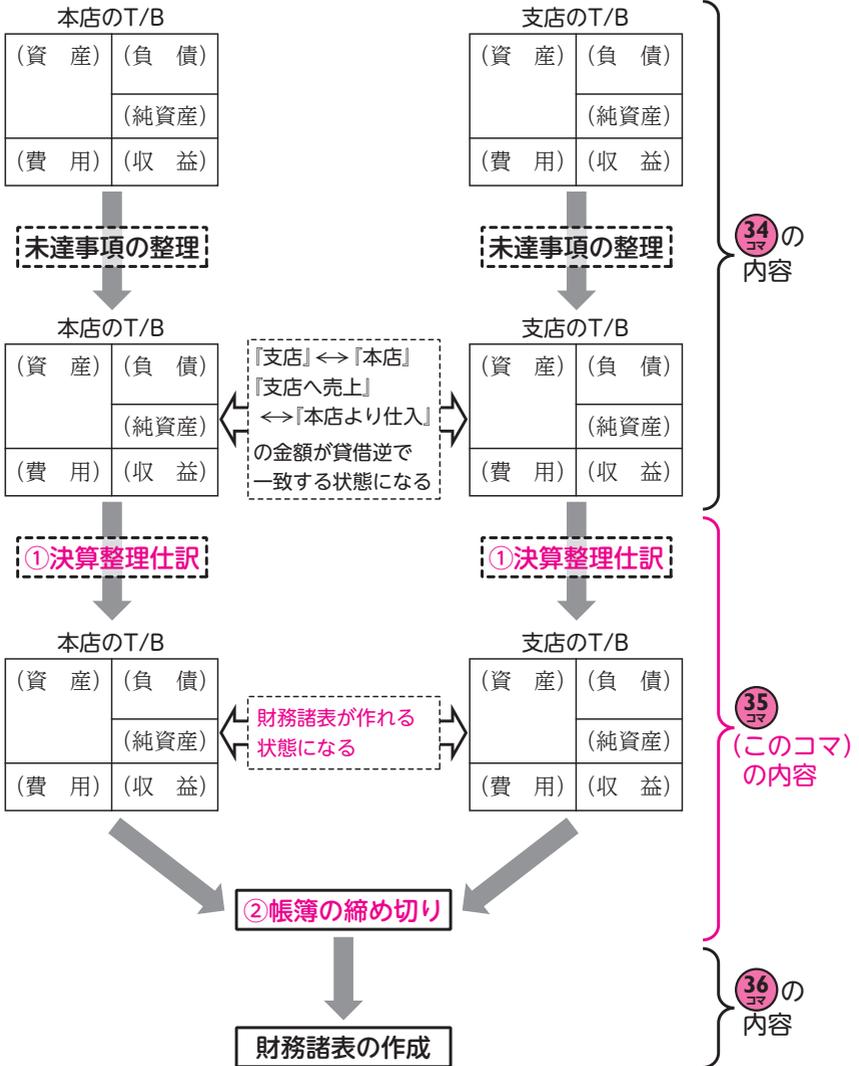
借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金	11,700	4,000	買掛金	23,500	17,000
売掛金	30,000	24,000	貸倒引当金	500	200
支店	66,800	—	建物減価償却累計額	20,000	10,000
繰越商品	18,000	22,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	66,800
仕入	250,000	120,000	資本金	100,000	—
本店より仕入	—	142,800	繰越利益剰余金	18,000	—
販売費	20,800	30,000	売上	189,000	310,800
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上	142,800	—
			受取地代	5,400	—
	500,300	404,800		500,300	404,800



本試験の [資料] はこの形式
で与えられますよ



●本支店会計の、おおまかな流れ●



①決算整理仕訳について

本店でも支店でも、それぞれ決算整理仕訳を行います。

決算整理仕訳は **30** コマ ~ **33** コマ の話と同じです。

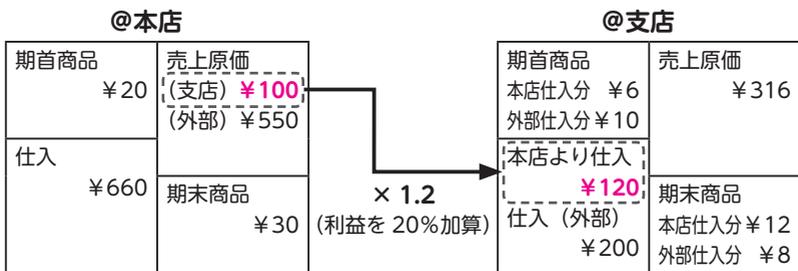


商品の流れの下書きについて

本支店会計においては、商品の流れは BOX 図を描いて考えるようにしましょう。

外部との取引と、本支店間の取引をしっかりと区別することで、問題文の情報を整理することができます。

また、あとで出てくる内部利益の除去も、この下書きを描いておくことで効率的に行えます。



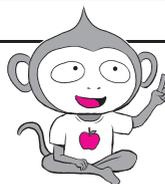
なお、売上原価の算定を行うための決算整理仕訳（いわゆる“シークリ・クリシー”）は、

本店と支店でそれぞれ行います。

このとき、支店においても『仕入』でまとめて行います。

『本店より仕入』は動かしません。

@本店				@支店			
仕 入	20	繰越商品	20	仕 入	16	繰越商品	16
繰越商品	30	仕 入	30	繰越商品	20	仕 入	20



@支店の『本店より仕入』と
@本店の『支店へ売上』は、
金額が一致したままにするからです



②帳簿の締め切りについて

決算整理仕訳までは、本店と支店で別々に行ってきました。

しかし、本店と支店があるといっても1つの同じ会社ですから、

最終的には利益や税金を1つの勘定でまとめて把握します。

具体的には、本店に『総合損益』という勘定を設けて、そこで1つにまとめます。

以下の(1)~(4)の流れです。

(1)本店と支店にそれぞれ『損益』をつくり、

(収益)・(費用)項目をまとめる。

(2)本店と支店、それぞれの利益を、本店にある『総合損益』にまとめる。

本店と支店の利益を、本店にある『総合損益』にまとめるときの注意点

まず、本店においては ① 損 益 200 / 総合損益 200 ②
(@本店) (@本店)

という仕訳を行います。

この仕訳により本店の『損益』の勘定は貸借が一致し、『総合損益』の貸方には本店の利益200が計上されます(右ページ参照)。

次に、支店の利益についても同様に仕訳を行いたいところですが、同じようには仕訳はできません。

なぜなら、

損 益 160 / 総合損益 160
(@支店) (@本店)



この仕訳は
NGなんです

仕訳の借方の帳簿が
支店にあり、

貸方の帳簿が本店にあること
になってしまうからです。

いくら同じ会社とはいえ、1つの仕訳の借方は大阪の支店の帳簿で行い、貸方は東京の本店の帳簿で行うことはできません。

そこで、本店と支店で、次のように仕訳を行います。

@本店		@支店	
③ 支 店 160 / 総合損益 160 (@本店) (@本店)	④ ⑤ 損 益 160 / 本 店 160 (@支店) (@支店)	④ ⑤ 損 益 160 / 本 店 160 (@支店) (@支店)	⑥



えーと、
160…と



支店の利益は
160 でチュ

(1)

@本店の帳簿

費用項目		収益項目	
『仕 入』		『売 上』	
650			950
『給 料』		『受取利息』	
180			80
『損 益』		『損 益』	
830	1,030	316	476
① 200		⑤ 160	

@支店の帳簿

費用項目		収益項目	
『仕 入』		『売 上』	
196			450
『本店より仕入』		『受取家賃』	
120			26
『損 益』		『損 益』	
316	476	316	476
⑤ 160		⑤ 160	

(2)

『総合損益』②	『支 店』
200	160
160	③
④	

『本 店』	⑥
160	



『支店』勘定のイメージは株式のようなものです。支店で利益が出ただけ株式の価値があがったので、その分増やしている感じです



『本店』勘定のイメージは資本金のようなものです。資本金に利益をくっつけた3級の仕訳に似ていますね!



(3)内部利益の調整を行う。

商品を会社の外部に販売して初めて利益が生じます。

これが大原則です。

しかし、本店から支店へ商品を発送するときにも

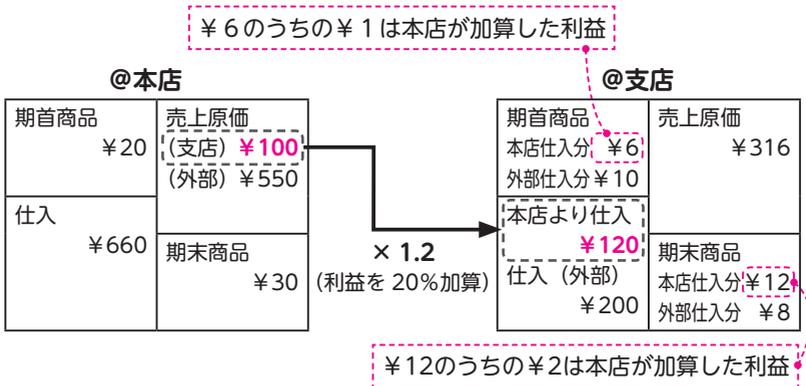
利益を上乗せしていました。

もしその商品が期末時点で在庫として残っていた場合には、

それに含まれる利益は**計上してはいけない内部利益**として

除く必要があります。

会社内部で移動しただけの商品に上乗せされた利益だからです。



支店の期末商品のうち、本店から仕入れた分に含まれる内部利益を算定し、『総合損益』から除きます。

相手の勘定は『繰延内部利益』とします。

$$¥ 12 \div (1 + 0.2) = ¥ 10 \cdots \text{原価}$$

$$¥ 10 \times 0.2 = ¥ 2 \cdots \text{上乗せした利益}$$

利益 ¥ 2	}	1.2
原価 ¥ 10		

㊦	総合損益 2 / 繰延内部利益 2	㊧
---	-------------------	---

また、期首商品の内部利益は、前期末に除かれていました。この商品は期中に外部に売れたものとして、そこに含まれる内部利益は『総合損益』に戻します。

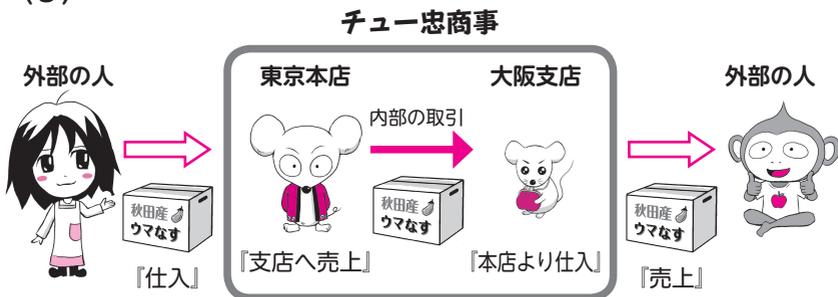
㊨	繰延内部利益 1 / 総合損益 1	㊩
---	-------------------	---

(4) 『法人税等』を計上する。

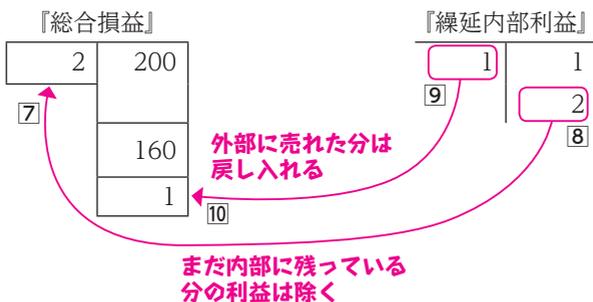
『法人税等』は1つの会社に対して課される税金であり、利益に課される税金です。

内部利益の調整を行い、最後に『法人税等』を計上します。残額が、会社の当期純利益です。

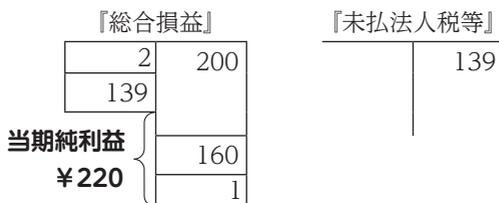
(3)



¥6のうちの¥1は本店が加算した利益
ここで初めて利益を計上してOK!



(4)



※ なお、『総合損益』勘定を作らずに、@本店の帳簿の『損益』勘定で(2)~(4)をまとめて行う方法もあります。

問題 総合損益勘定の作成

青森商店(株)の第26期(平成×6年4月1日～平成×7年3月31日)の資料にもとづき、答案用紙の総合損益勘定を作成しなさい。

[資料1] 決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	11,000	4,000	買掛金	23,500	17,000
売掛金	30,000	32,000	貸倒引当金	500	200
支店	68,000	—	建物減価却累計額	20,000	10,000
繰越商品	18,000	22,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	70,000
仕入	250,000	120,000	資本金	100,000	—
本店より仕入	—	138,000	繰越利益剰余金	18,000	—
販売費	20,000	30,000	売上	189,000	310,800
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上	142,800	—
			受取地代	5,100	—
	500,000	408,000		500,000	408,000

注1. 本店は、支店に対して商品を外部仕入原価の20%増しの価格で販売している。

注2. 期末商品棚卸高

本店 ¥ 30,000、支店 ¥ 19,200(うち、本店からの仕入分は ¥ 13,200。未達分は含まない)

なお、支店の期首商品棚卸高には、本店から仕入れた商品 ¥ 6,600 が含まれている。

注3. 税引前当期純利益に対して、50%の法人税等を計上する。

[資料2] 本店側の処理

未達事項

- | | | | |
|-------------|-----|----------|-----|
| 1. (借) 現金預金 | 700 | (貸) 支店 | 700 |
| 2. (借) 販売費 | 800 | (貸) 支店 | 800 |
| 3. (借) 支店 | 300 | (貸) 受取地代 | 300 |

決算整理

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. (借) 仕入() | (貸) 繰越商品() |
| 2. (借) 繰越商品() | (貸) 仕入() |
| 3. (借) 貸倒引当金繰入 100 | (貸) 貸倒引当金 100 |
| 4. (借) 減価償却費 20,000 | (貸) 建物減価償却累計額 20,000 |



本 店 損 益

仕 入 ()	売 上 189,000	
販 売 費 ()	支 店 へ 売 上 142,800	
一 般 管 理 費 3,000	受 取 地 代 ()	
貸 倒 引 当 金 繰 入 ()	/	
減 価 償 却 費 ()		
総 合 損 益 ()		
()		()

[資料3] 支店側の処理

未達事項

1. (借) 本店より仕入 4,800 (貸) 本 店 4,800
2. (借) 本 店 8,000 (貸) 売 掛 金 8,000

決算整理

1. (借) 仕 入 () (貸) 繰 越 商 品 ()
2. (借) 繰 越 商 品 () (貸) 仕 入 ()
3. (借) 貸 倒 引 当 金 繰 入 280 (貸) 貸 倒 引 当 金 280
4. (借) 減 価 償 却 費 3,000 (貸) 建 物 減 価 償 却 累 計 額 3,000

支 店 損 益

仕 入 ()	売 上 310,800
本店より仕入 ()	/
販 売 費 30,000	
一 般 管 理 費 2,000	
貸 倒 引 当 金 繰 入 ()	
減 価 償 却 費 ()	
本 店 ()	
()	

答案用紙

総 合 損 益

内部利益控除 ()	本 店 損 益 ()
法 人 税 等 ()	支 店 ()
繰越利益剰余金 ()	内部利益戻入 ()
()	()



解説

Step 0 本支店会計の問題を解く流れを確認する

解答する流れを確認してから、問題にとりかかりましょう。

Step 1 未達事項の整理

Step 2 決算整理仕訳

Step 3 仕訳の集計

Step 4 帳簿の締め切り(勘定への記入)

“本支店は未達から”
と覚えておきましょう



Step 1 未達事項の整理

まずは未達事項の整理から行います。

本支店会計の問題は「何から手を付ければいいんだっけ?」となりがちなので、注意しましょう。

なお、本問では未達事項の仕訳は与えられています。

Step 2 決算整理仕訳

次に、決算整理仕訳を行います。

本問では決算整理仕訳も与えられていますが、一部穴埋めになっています。

商品の流れはBOX図を描いて把握するようにしましょう。

@本店			@支店	
期首商品 ¥18,000	売上原価 (支店) ¥119,000 (外部) ¥119,000	→	期首商品 ¥22,000	売上原価 ¥260,800
仕入 ¥250,000	期末商品 ¥30,000		{本店仕入分 ¥6,600 {外部仕入分 ¥15,400 本店より仕入 ¥142,800 仕入(外部) ¥120,000	期末商品 ¥19,200 + 未達分 ¥4,800 {本店仕入分 ¥13,200 + ¥4,800 {外部仕入分 ¥6,000
		× 1.2 (利益を 20%加算)		

@支店の期首商品、期末商品に含まれる内部利益も算定しておきましょう。

@支店・期首商品に含まれる内部利益 ... $¥6,600 \div 1.2 \times 0.2 = ¥1,100$

@支店・期末商品に含まれる内部利益 ... $(¥13,200 + ¥4,800) \div 1.2 \times 0.2 = ¥3,000$

本問では穴埋めになっている売上原価算定の仕訳は以下の通りになります。

@本店

1. (借) 仕 入 (18,000) (貸) 繰 越 商 品 (18,000)
2. (借) 繰 越 商 品 (30,000) (貸) 仕 入 (30,000)

@支店

1. (借) 仕 入 (22,000) (貸) 繰 越 商 品 (22,000)
2. (借) 繰 越 商 品 (24,000*) (貸) 仕 入 (24,000)

※ ¥ 19,200 + ¥ 4,800 = ¥ 24,000

Step 3 仕訳の集計

Step 1 未達事項の整理の仕訳と、**Step 2** の決算整理仕訳が終わったら、それらの仕訳を集計します。**33** の問題のように、答案用紙の [資料1] に直接書き込む要領で集計すると解答時間が短縮できます。

このとき、[資料1] の T/B は借方・貸方のそれぞれに、「本店の T/B の列」・「支店の T/B の列」があるので、ミスしないように注意しましょう。

Step 4 帳簿の締め切り(勘定への記入)

仕訳の金額を集計したら、@本店、@支店それぞれ P/L 項目を『損益』に集計します。

本問では『本店損益』『支店損益』となっていますが、それぞれ本店の『損益』、支店の『損益』という意味です。

@本店

		本 店 損 益			
仕 販 入	(238,000)	売 上		189,000	
一 般 管 理 費	(20,800)	支 店 へ 売 上		142,800	
貸 倒 引 当 金 繰 入	(3,000)	受 取 地 代		(5,400)	
減 価 償 却 費	(100)				
総 合 損 益	(20,000)				
	(55,300)				
	(337,200)				(337,200)

@支店

		支 店 損 益			
仕 販 入	(118,000)	売 上		310,800	
本 店 より 仕 入	(142,800)				
一 般 管 理 費	30,000				
貸 倒 引 当 金 繰 入	2,000				
減 価 償 却 費	(280)				
本 店	(3,000)				
	(14,720)				
	(310,800)				310,800



本店損益 55,300/総合損益 55,300

『本店損益』『支店損益』を完成させたら、あとはそれぞれの利益を
@本店にある『総合損益』にまとめます。勘定の流れは次の通りです。



次に、@支店の期首商品に含まれていた内部利益は『総合損益』に戻し入れ、期末商品に含まれている内部利益は『総合損益』から控除します。

『総合損益』	『繰延内部利益』										
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">3,000</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">55,300</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: left;">14,720</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: left;">1,100</td> </tr> </table>	3,000	55,300		14,720		1,100	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,100</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">1,100</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: left;">3,000</td> </tr> </table>	1,100	1,100		3,000
3,000	55,300										
	14,720										
	1,100										
1,100	1,100										
	3,000										

この時点で『総合損益』は

貸方合計： ¥ 55,300 + ¥ 14,720 + ¥ 1,100 = ¥ 71,120	
借方合計	¥ 3,000
貸借差額： ¥ 71,120 - ¥ 3,000	= ¥ 68,120

となっています。貸借差額 ¥ 68,120 が税引前当期純利益です。

その50%を法人税等として計上するので、『総合損益』は以下のようになります。

	『総合損益』						
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">3,000</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">55,300</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">税引前当期純利益 ¥ 68,120 × 50% → 34,060</td> <td style="text-align: left;">14,720</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">残額が当期純利益 → 34,060</td> <td style="text-align: left;">1,100</td> </tr> </table>	3,000	55,300	税引前当期純利益 ¥ 68,120 × 50% → 34,060	14,720	残額が当期純利益 → 34,060	1,100
3,000	55,300						
税引前当期純利益 ¥ 68,120 × 50% → 34,060	14,720						
残額が当期純利益 → 34,060	1,100						

(その後、『繰越利益剰余金』に振り替える)

総合損益			
内部利益控除 (3,000)	本店損益 (55,300)		
法人税等 (34,060)	支店 (14,720)		
繰越利益剰余金 (34,060)	内部利益戻入 (1,100)		
(71,120)		(71,120)	

なお、本問では『総合損益』の勘定記入だけが問われていますが、@本店の『支店』勘定(または@支店の『本店』勘定)の次期繰越額が問われる問題もあります。

@本店		@支店	
『支店』		『本店』	
68,000	700	8,000	70,000
300	800		4,800
14,720			14,720
借方残高			貸方残高
81,520			81,520

貸借逆で金額は一致

この場合、¥ 81,520 が『支店』勘定(または『本店』勘定)の帳簿上の次期繰越額となります。

『支店損益』¥ 14,720 があっていないと正解にならないので、かなり難易度の高い問題です。

このように、本支店会計の帳簿の締め切りの問題は難しいことが多いので、解いていて「難しそうだな」「時間がかかりそうだな」と感じた場合は、後回しにするか、部分点狙いに切り替えるのも戦略の1つです。

この **35** の問題が解ければ、試験対策上は十分です。

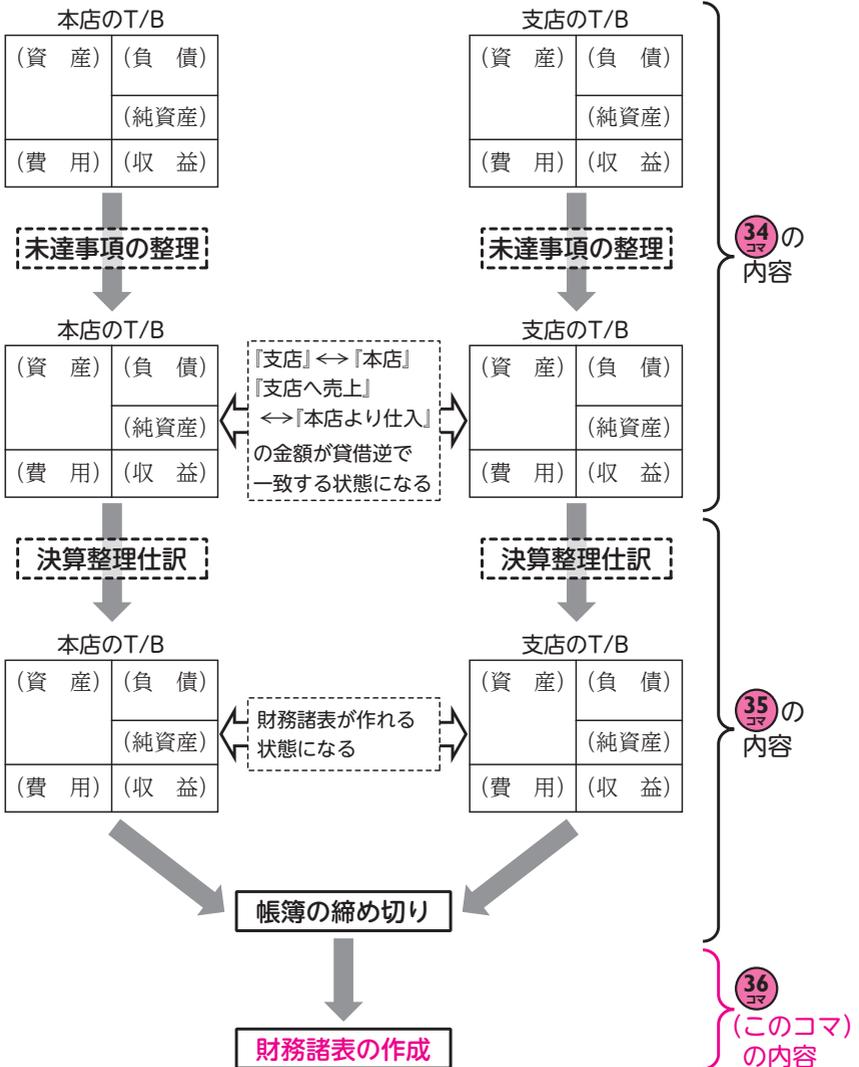


1つの問題に時間をかけすぎて、他の問題に時間を回せなくなってしまうように注意しましょう

このコマはここまでです



●本支店会計の、おおまかな流れ●



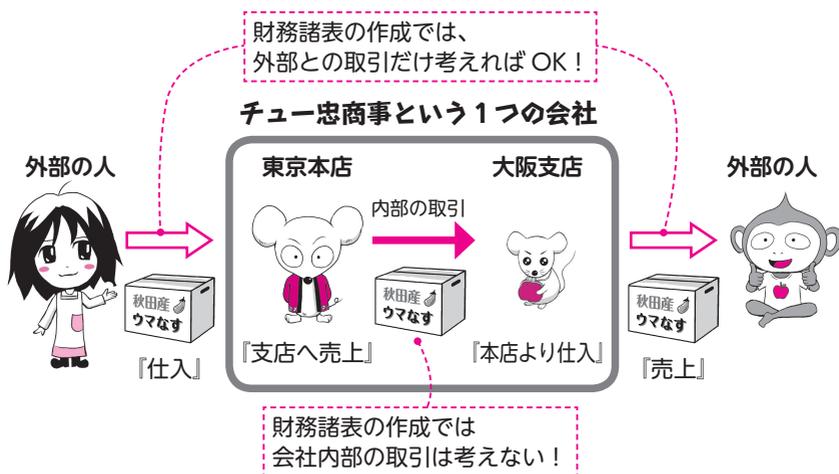
財務諸表の作成

35 コマ で学習した「帳簿の締め切り」の問題は、本店と支店のそれぞれに帳簿が置かれており、その流れを追う問題でした。かなり複雑な内容で、出題されると多くの人が苦手とする問題です。

これに対し、「財務諸表の作成」の問題はシンプルです。

財務諸表は外部に公表するためのものなので、**会社外部との取引にだけ注目して作ります**。会社内部での取引は、会社内部だけで把握できていればいいので、考えなくてOKです。

本店と支店があったとしても、財務諸表は“1つの会社”という立場で作っていることになります。



本支店会計の問題を見たときは、「帳簿の締め切り」の問題なのか、「財務諸表の作成」の問題なのかで、頭を切り替えて臨むようにしてください。

なお、本支店会計における財務諸表は、最後に本店と支店の各科目の金額を合算して作成することから、「**本支店合併財務諸表**」とい

財務諸表の作成問題の具体的な解き方

基本的な流れは**未達事項の整理**→**決算整理仕訳**をしたあとに、それらを**集計**して、**本店と支店の各項目を合算してB/S・P/Lを作成**します。

各項目を合算するうえでのポイントは、次の①と②です。

①財務諸表上は出てこなくなる勘定科目

会社内部の取引を表している

『支店』 ↔ 『本店』
『支店へ売上』 ↔ 『本店より仕入』
という科目は、財務諸表上はできません。

これらは貸借逆で金額が一致しており、“1つの会社”の立場で作る財務諸表上は、合算するとき**に会社内部で相殺されて消える**と考えます。

②商品について

財務諸表は、“1つの会社”の立場で作るので、**会社外部との取引だけを考え**ます。

したがって、商品売買は会社外部との取引だけを『仕入』・『売上』とします。会社内部での商品売買は、同じ会社の中での商品の移動に過ぎません。

また、期首・期末商品の金額も、**会社内部で上乗せした内部利益は除いて考え**ます。

【数値例】

@本店		@支店	
期首商品 ¥20	売上原価 (支店) ¥100 (外部) ¥550	期首商品 本店仕入分 ¥6 外部仕入分 ¥10	売上原価 ¥316
仕入(外部) ¥660	期末商品 ¥30	本店より仕入 ¥120 仕入(外部) ¥200	期末商品 本店仕入分 ¥12 外部仕入分 ¥8
		支店へ売上 ¥120 売上(外部) ¥700	売上(外部) ¥420
		内部利益 ¥1	内部利益 ¥2

商品については、BOX図の下書きから数字をピックアップする要領でP/Lを作成しましょう。

I 売上高	1,120	¥700 + ¥420 = ¥1,120 外部に対するものだけを選んで計上
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	35	¥20 + ¥6 + ¥10 - ¥1 = ¥35
2 当期商品仕入高	860	期首時点で存在する商品から内部利益を除く
合計	895	¥660 + ¥200 = ¥860
3 期末商品棚卸高	48	外部から仕入れたものだけを選んで計上
売上総利益	273	¥30 + ¥12 + ¥8 - ¥2 = ¥48 期末時点で存在する商品から内部利益を除く

問題 本支店合併損益計算書の作成

- 次の[資料]にもとづき、答案用紙の本支店合併損益計算書を作成しなさい。
1. 本店は、支店に対し、商品を外部仕入原価の20%増しの価格で販売している。
 2. 期首商品棚卸高 本店 ¥ 18,000 支店 ¥ 22,000 (うち本店からの仕入分は ¥ 6,600)
 期末商品棚卸高 本店 ¥ 30,000 支店 ¥ 24,000 (うち本店からの仕入分は ¥ 18,000)
 当期商品仕入高 本店 ¥ 250,000 支店 ¥ 262,800 (うち本店からの仕入分は ¥ 142,800)
 3. 税引前当期純利益に対して、¥ 34,060 の法人税等を計上する。

[資料] 未達事項及び**決算整理後**の残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	11,700	4,000	買掛金	23,500	17,000
売掛金	30,000	24,000	貸倒引当金	600	480
支店	66,800	—	建物減価償却累計額	40,000	13,000
繰越商品	30,000	24,000	繰延内部利益	1,100	—
建物	100,000	60,000	本店	—	66,800
仕入	238,000	118,000	資本金	100,000	—
本店より仕入	—	142,800	繰越利益剰余金	18,000	—
販売費	20,800	30,000	売上	189,000	310,800
一般管理費	3,000	2,000	支店へ売上	142,800	—
貸倒引当金繰入	100	280	受取家賃	5,400	—
減価償却費	20,000	3,000			
	520,400	408,080		520,400	408,080

答案用紙

損 益 計 算 書		
自平成×6年4月1日 至平成×7年3月31日(単位:円)		
I 売上高	()	()
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	()	
2 当期商品仕入高	()	
合 計	()	
3 期末商品棚卸高	()	()
売上総利益		()
III 販売費及び一般管理費		
1 販売費	()	
2 一般管理費	()	
3 貸倒引当金繰入	()	
4 減価償却費	()	()
営業利益		()
IV 営業外収益		
1 受取家賃	()	()
税引前当期純利益		()
法人税、住民税及び事業税		()
当期純利益		()

解説

@本店		@支店	
支店へ売上 ¥142,800 売上(外部) ¥189,000		売上(外部) ¥310,800	
期首商品 ¥18,000	売上原価 (支店) ¥119,000 (外部) ¥119,000	期首商品 ¥22,000 本店仕入分 ¥6,600 外部仕入分 ¥15,400	売上原価 ¥260,800
仕入 ¥250,000	期末商品 ¥30,000	本店より仕入 ¥142,800 仕入(外部) ¥120,000	期末商品 ¥24,000 本店仕入分 ¥18,000 外部仕入分 ¥6,000

内部利益 ¥1,100

× 1.2 (利益を20%加算)

内部利益 ¥3,000

期首商品(@支店)に含まれる内部利益 ... $¥6,600 \div 1.2 \times 0.2 = ¥1,100$

期末商品(@支店)に含まれる内部利益 ... $¥18,000 \div 1.2 \times 0.2 = ¥3,000$

商品に関する科目以外は、単純に本店と支店の金額を合算します。

解答

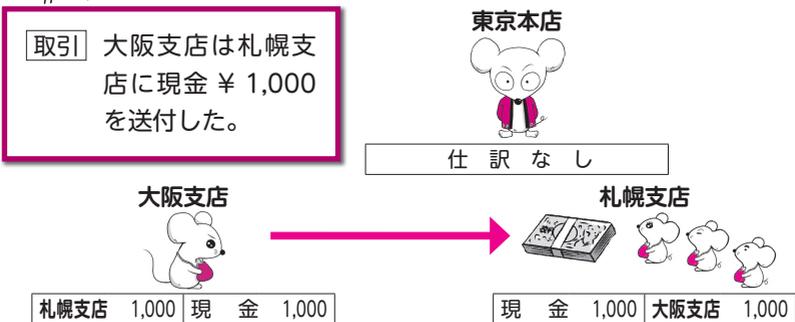
損益計算書		
自平成×6年4月1日 至 平成×7年3月31日 (単位:円)		
I 売上高		(499,800)
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	(38,900)	
2 当期商品仕入高	(370,000)	
合計	(408,900)	
3 期末商品棚卸高	(51,000)	(357,900)
売上総利益		(141,900)
III 販売費及び一般管理費		
1 販売費	(50,800)	
2 一般管理費	(5,000)	
3 貸倒引当金繰入	(380)	
4 減価償却費	(23,000)	(79,180)
営業利益		(62,720)
IV 営業外収益		
1 受取家賃	(5,400)	(5,400)
税引前当期純利益		(68,120)
法人税、住民税及び事業税		(34,060)
当期純利益		(34,060)



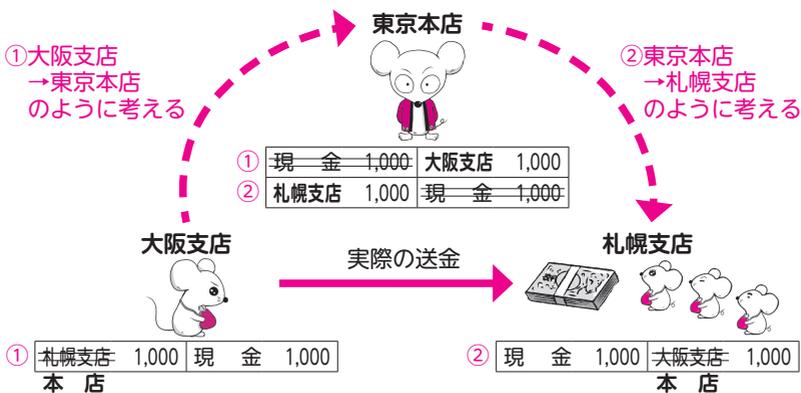
本支店会計で一番よく出題されるのが「財務諸表の作成」の問題だよ!

支店が複数
ある場合

もし支店が複数ある場合には、支店同士の取引の仕訳は以下のようになります。



このとき、本店では「仕訳なし」となっています。しかし、本店のネズミの店主にしてみれば、支店同士のやりとりも帳簿上記録しておきたいところです。そこで、支店同士の取引をいったん本店を介して行ったかのように仕訳をする方法があります。



このように、各支店には『本店』勘定のみをおき、本店において『大阪支店』『札幌支店』という勘定をもうけます。

特徴的なのは本店における仕訳です。『現金』は相殺されて仕訳上は消えて、貸借それぞれに『〇〇支店』という勘定が出てくるだけの形になります。

このような方法を、ほんてんしゅうちゅうけいせいど本店集中計算制度といえます。



問題 本支店会計の財務諸表作成問題(本試験レベル)

目標時間 30分、目標点 12点

次の高知商店の(Ⅰ)決算整理前残高試算表、(Ⅱ)未達事項および(Ⅲ)期末整理事項にもとづき、答案用紙の本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。なお、解答にさいして、次の点に留意すること。

1. 本支店間の売上および仕入は相殺し、内部利益は、期末商品棚卸高から直接控除すること。
2. 本店から支店への商品を発送するさいに、每期原価の20%の利益が加えられている。
3. 未達現金は現金預金に、未達商品は期末商品棚卸高および商品に含めて示すこと。
4. 当期純利益は、貸借対照表においては繰越利益剰余金に含めて示すこと。
5. 会計期間は平成×6年4月1日から平成×7年3月31日までの1年である。

(Ⅰ)決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	74,920	31,900	支払手形	22,000	25,500
受取手形	27,000	10,500	買掛金	17,550	21,500
売掛金	23,000	18,900	本店	—	93,700
繰越商品	38,500	23,000	貸倒引当金	220	120
支店	?	—	建物減価償却累計額	42,000	18,000
土地	202,000	30,000	備品減価償却累計額	6,250	2,500
建物	200,000	50,000	繰延内部利益	?	—
備品	50,000	20,000	長期借入金	60,000	—
仕入	962,600	280,000	資本金	400,000	—
本店より仕入	—	?	利益準備金	20,000	—
営業費	89,800	18,770	繰越利益剰余金	5,000	—
支払利息	1,050	—	売上	1,000,000	480,000
手形売却損	1,100	250	支店へ売上	180,000	—
			受取家賃	12,000	9,000
	?	?		?	?

(Ⅱ)未達事項

1. 支店から本店へ送金した現金 ¥ 8,000 が本店に未達である。
2. 本店から支店へ商品 ¥ 13,000 (振替価額) を発送したが、支店に未達である。
3. 本店は、支店の売掛金 ¥ 5,400 を現金で回収したが、その通知が支店に未達である。
4. 支店は、本店の営業費 ¥ 5,500 を立替払いしたが、その通知が本店に未達である。
5. 支店は、支店の買掛金 18,000 を支払うため、本店を名宛人、仕入先広島商店を受取人とする為替手形を振り出したが、その通知が本店に未達である。

(Ⅲ)期末整理事項

1. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。ただし、支店の期末棚卸高には、未達分は含まれていない。
本店：帳簿棚卸高 ¥ 37,500
支店：帳簿棚卸高 ¥ 34,500 (このうち ¥ 12,500 は本店から仕入れたものである)
なお、支店の期首商品のうち、¥ 10,500 は本店から仕入れたものである。
2. 受取手形と売掛金の期末残高に対してそれぞれ2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
3. 固定資産の減価償却を以下のとおりにおこなう。
建物：本店・支店ともに定額法(耐用年数20年、残存価額：取得原価の10%)
備品：本店・支店ともに定率法(償却率：20%)
4. 長期借入金は、本店が平成×5年11月1日に借入期間5年、利率年3%の条件で借り入れたもので、利息は毎年10月末に1年分を後払いで支払うことになっている。
5. 受取家賃は、本支店ともに毎年7月1日に向こう12カ月分を受け取っている。
6. 営業費の未払額が、本店に ¥ 1,600、支店に ¥ 550 ある。



答案用紙

損益計算書

平成×6年4月1日～平成×7年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	()	売上高	1,480,000
当期商品仕入高	()	期末商品棚卸高	()
貸倒引当金繰入	()	受取家賃	()
減価償却費	()		
営業費	()		
支払利息	()		
手形売却損	()		
当期純()	()		
	()		()

貸借対照表

平成×7年3月31日

資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	()	支払手形	()
受取手形	()	買掛金	()
売掛金	()	()費用	()
貸倒引当金	() ()	()収益	()
商品	()	長期借入金	60,000
土地	232,000	資本金	400,000
建物	()	利益準備金	20,000
減価償却累計額	() ()	繰越利益剰余金	()
備品	()		
減価償却累計額	() ()		
	()		()

この問題はコピーして
2回くらい解いてみてください



解説

Step 0 本支店会計の問題を解く流れを確認する

解答する流れを確認してから、問題にとりかかりましょう。
なお、本問のように本支店会計ではP/Lが勘定式で与えられることが
あります。

Step 1 未達事項の整理

Step 2 決算整理仕訳（商品だけはBOX図の下書きをもとに
にB/S、P/Lの空欄を埋める）

Step 3 仕訳の集計

Step 4 本店と支店の各項目を合算してB/S、P/Lを作成する

Step 1 未達事項の整理

まずは未達事項の整理から行います。

未達事項1 : @本店

現金預金	8,000	支店	8,000
------	-------	----	-------

@支店

仕訳なし			
------	--	--	--

未達事項2 : @本店

仕訳なし			
------	--	--	--

@支店

本店より仕入	13,000	本店	13,000
--------	--------	----	--------

未達事項3 : @本店

仕訳なし			
------	--	--	--

@支店

本店	5,400	売掛金	5,400
----	-------	-----	-------

未達事項4 : @本店

営業費	5,500	支店	5,500
-----	-------	----	-------

@支店

仕訳なし			
------	--	--	--

未達事項5 : @本店

支店	18,000	支払手形	18,000
----	--------	------	--------

@支店

仕訳なし			
------	--	--	--

未達事項5において@支店側で行っていた仕訳は

買掛金 18,000 / 本店 18,000 となります。



Step 2 決算整理仕訳

次に、決算整理仕訳を行います。

決算整理事項 1 :

商品の流れはBOX図を描いて把握するようにしましょう。

@本店		@支店	
期首商品 ¥38,500	売上原価 (支店) ¥150,000 (外部) ¥813,600	期首商品 ¥23,000 { 本店仕入分 ¥10,500 外部仕入分 ¥12,500	売上原価 ¥435,500
仕入 ¥962,600	期末商品 ¥37,500	本店より仕入 ¥180,000 仕入(外部) ¥280,000	期末商品 ¥34,500 + 未達分 ¥13,000 { 本店仕入分 ¥12,500 + ¥13,000 外部仕入分 ¥22,000

支店へ売上 ¥180,000
売上(外部) ¥1,000,000

売上(外部) ¥480,000

× 1.2 (利益を 20%加算)

期首商品(@支店)に含まれる内部利益 … $¥10,500 \div 1.2 \times 0.2 = ¥1,750$

なお、決算整理前残高試算表の貸方『繰延内部利益』は、期首商品に含まれる内部利益です。

期末商品(@支店)に含まれる内部利益 … $(¥12,500 + ¥13,000) \div 1.2 \times 0.2 = ¥4,250$

損益計算書(一部)

平成×6年4月1日～平成×7年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	(59,750 ^{*1)}	売上高	1,480,000
当期商品仕入高	(1,242,600 ^{*2)}	期末商品棚卸高	(80,750 ^{*3)}

※1… $¥38,500 + ¥23,000 - ¥1,750 = ¥59,750$

※2… $¥962,600 + ¥280,000 = ¥1,242,600$

※3… $¥37,500 + ¥34,500 + ¥13,000 - ¥4,250 = ¥80,750$ (B/S『商品』もこの金額になる)

財務諸表の作成問題では、商品BOX図の下書きから数字をピックアップして財務諸表を埋めます。したがって、売上原価算定の仕訳を行う必要がありません。

ただ、帳簿の締め切りの問題では必要になるので、参考のために以下に示しておきます。

稀に合併財務諸表を作せられた上に、さらに帳簿上の金額まで聞いてくる問題があります



そのときは部分点狙いでいきましょう…

@本店				@支店			
仕入	38,500	繰越商品	38,500	仕入	23,000	繰越商品	23,000
繰越商品	37,500	仕入	37,500	繰越商品	47,500	仕入	47,500

決算整理事項2：

@本店

貸倒引当金繰入	780 ^{※1}	貸倒引当金	780
---------	-------------------	-------	-----

@支店

貸倒引当金繰入	360 ^{※2}	貸倒引当金	360
---------	-------------------	-------	-----

※1… $(\yen 27,000 + \yen 23,000) \times 2\% - \yen 220 = \yen 780$

貸倒引当金の要設定額

※2… $(\yen 10,500 + 18,900 - \yen 5,400) \times 2\% - \yen 120 = \yen 360$

貸倒引当金の要設定額

決算整理事項3：

@本店

減価償却費	9,000 ^{※1}	建物減価償却累計額	9,000
-------	---------------------	-----------	-------

@支店

減価償却費	2,250 ^{※2}	建物減価償却累計額	2,250
-------	---------------------	-----------	-------

※1… $\yen 200,000 \times 0.9 \div 20 \text{年} = \yen 9,000$

※2… $\yen 50,000 \times 0.9 \div 20 \text{年} = \yen 2,250$

@本店

減価償却費	8,750 ^{※3}	商品減価償却累計額	8,750
-------	---------------------	-----------	-------

@支店

減価償却費	3,500 ^{※4}	商品減価償却累計額	3,500
-------	---------------------	-----------	-------

※3… $(\yen 50,000 - \yen 6,250) \times 20\% = \yen 8,750$

※4… $(\yen 20,000 - \yen 2,500) \times 20\% = \yen 3,500$

決算整理事項4：

利息は後払いなので、×6年11/1～×7年3/31の5カ月分が未払いになっています。

@本店

支払利息	750 [※]	未払費用	750
------	------------------	------	-----

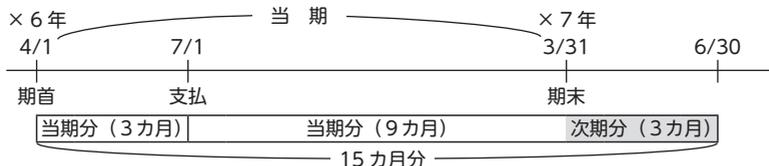
@支店

仕訳なし			
------	--	--	--

※… $\yen 60,000 \times 3\% \times \frac{5 \text{カ月}}{12 \text{カ月}} = \yen 750$

決算整理事項5：

毎年7/1に向こう12カ月分を受け取っているので、次期の×7年4/1～6/30の3カ月分が前受けとなっており、T/Bには15カ月分が計上されています。



@本店

受取家賃	2,400 ^{※1}	前受収益	2,400
------	---------------------	------	-------

@支店

受取家賃	1,800 ^{※2}	前受収益	1,800
------	---------------------	------	-------

※1… $\yen 12,000 \div 15 \text{カ月} \times 3 \text{カ月} = \yen 2,400$

※2… $\yen 9,000 \div 15 \text{カ月} \times 3 \text{カ月} = \yen 1,800$



決算整理事項6 :

@本店

営業費	1,600	未払費用	1,600
-----	-------	------	-------

@支店

営業費	550	未払費用	550
-----	-----	------	-----

Step 3 仕訳の集計

Step 1 と Step 2 の仕訳が終わったら、それらを集計します。答案用紙の「資料」に直接書き込む要領で集計すると解答時間が短縮できます。

また、資料の一部が「？」となっていますが、貸借逆で金額が一致する勘定同士を比較することで求めることができます。

@本店	@支店
『支店』	『本店』
(前T/B) ? 8,000	5,400 93,700 (前T/B)
18,000 5,500	13,000
※1 借方残高 101,300	貸方残高 101,300
貸借逆で金額は一致	
<p>※1…「？」+ ¥18,000 - ¥8,000 - ¥5,500 = ¥101,300 ∴ 「？」= ¥96,800</p>	
『支店へ売上』	『本店より仕入』
180,000 (前T/B)	(前T/B) ? 13,000
貸方残高 180,000	※2 借方残高 180,000
貸借逆で金額は一致	
<p>※2…「？」+ ¥13,000 = ¥180,000 ∴ 「？」= ¥167,000</p>	

本問は特に「？」を求めなくても解けます。しかし、稀に「？」を埋めないと満点が狙えないような問題が出題されることもあります。

そのような問題は、解答するのに時間が掛かることが予想されます。熱くならず落ち着いた残りの試験時間を考えて、部分点狙いに切り替えるのも、試験上は有効な戦略です。

Step 4 本店と支店の各項目を合算してB/S、P/Lを作成する

仕訳の金額を集計したら、あとは本店と支店の各科目の金額を合算して完成です。

解答

損益計算書

平成×6年4月1日～平成×7年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	(59,750)	売上高	1,480,000
当期商品仕入高	(1,242,600)	期末商品棚卸高	(80,750)
貸倒引当金繰入	(1,140)	受取家賃	(16,800)
減価償却費	(23,500)		
営業費	(116,220)		
支払利息	(1,800)		
手形売却損	(1,350)		
当期純(利益)	(131,190)		
	(1,577,550)		(1,577,550)

貸借対照表

平成×7年3月31日

資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	(114,820)	支払手形	(65,500)
受取手形	(37,500)	買掛金	(39,050)
売掛金	(36,500)	(未払)費用	(2,900)
貸倒引当金	(1,480) (72,520)	(前受)収益	(4,200)
商品	(80,750)	長期借入金	60,000
土地	232,000	資本金	400,000
建物	(250,000)	利益準備金	20,000
減価償却累計額	(71,250) (178,750)	繰越利益剰余金	(136,190)
備品	(70,000)		
減価償却累計額	(21,000) (49,000)		
	(727,840)		(727,840)

1つにつき2点 合計20点。



本店	支店	合併財務諸表
貸倒引当金繰入：¥780	+ ¥360	= ¥1,140
減価償却費：¥17,750	+ ¥5,750	= ¥23,500
営業費：¥89,800+¥5,500+¥1,600	+ ¥18,770+ ¥550	= ¥116,220
支払利息：¥1,050+¥750		= ¥1,800
手形売却損：¥1,100	+ ¥250	= ¥1,350
受取家賃：¥12,000- ¥2,400	+ ¥9,000- ¥1,800	= ¥16,800
現金預金：¥74,920+ ¥8,000	+ ¥31,900	= ¥114,820
受取手形：¥27,000	+ ¥10,500	= ¥37,500
売掛金：¥23,000	+ ¥18,900- ¥5,400	= ¥36,500
貸倒引当金：¥220+ ¥780	+ ¥120+ ¥360	= ¥1,480
土地：¥202,000	+ ¥30,000	= ¥232,000
建物：¥200,000	+ ¥50,000	= ¥250,000
減価償却累計額(建物)：¥42,000+ ¥9,000	+ ¥18,000+ ¥2,250	= ¥71,250
備品：¥50,000	+ ¥20,000	= ¥70,000
減価償却累計額(備品)：¥6,250+ ¥8,750	+ ¥2,500+ ¥3,500	= ¥21,000
支払手形：¥22,000+ ¥18,000	+ ¥25,500	= ¥65,500
買掛金：¥17,550	+ ¥21,500	= ¥39,050
未払費用：¥750+ ¥1,600	+ ¥550	= ¥2,900
前受収益：¥2,400	+ ¥1,800	= ¥4,200
繰越利益剰余金：¥5,000+ ¥131,190*		= ¥136,190

※当期純利益(P/L 貸借差額より)

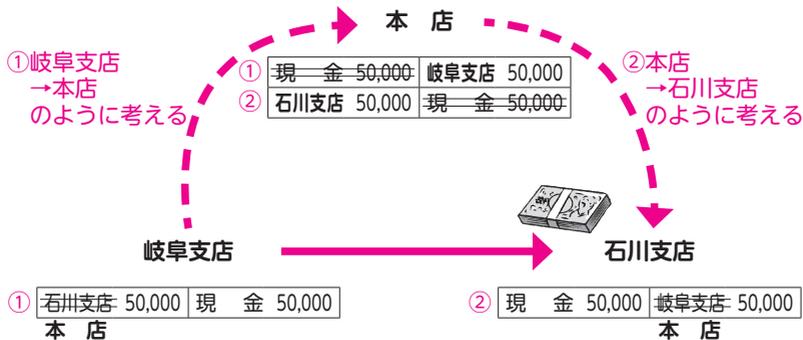


財務諸表の問題なので表示形式については32コマを参考にしてください

本支店会計の仕訳問題(過去問題 121回 第1問1より改題)

取引 キートモ物産株式会社の本店は、岐阜支店から石川支店へ現金 ¥ 50,000 を送金した旨の連絡を受けた。なお、同社は本店集中計算制度を採用している。

石川支店	50,000	岐阜支店	50,000
------	--------	------	--------



まとめ
第3問対策

- ・第3問は「精算表作成」「財務諸表作成」「本支店会計」のいずれかが出題される。
- ・「精算表作成」の問題は、**31**の問題を繰り返し解く。
- ・「財務諸表作成」の問題は、**33**の問題を繰り返し解く。
- ・「本支店会計」の問題は**35**、**36**の問題を繰り返し解く。